

シティII
カゲヤマ气象台

・人物

A

B

C

【根源】

【下等生物】

上演はまだ始まっていない。

Aが舞台上にいる。

火の勢い良く燃える音がスピーカーから流れている。

背後には【根源】がいる。

舞台下手には【下等生物】が吊るされている。

開演が近くなると、音楽。

その音楽に合わせて火の音が消え、波の音が代わりに聞こえてくる。

音楽が終わると、波の音だけが残る。

そこに火の燃える音も再び加わる。

B、C登場。

開演。波と火の音止む。

B あいむ、きれいじい！ あいむ、きれいじい！ あいむ、きれいじい！ しんすあいわずあぼーい！ あいむ、きれいじい！ しんすあいわずあぼーい！

A あいけいむひあ、びこーずざさんわすそーぶらいと、あいけいむひあ、まいはびねすいずのつとひあ、あいけいむひあ。

あいけいむひあ、おーるぐちるどれんはぶごーん、ばっどーなっしえだていあ、あいけいむひあ、どらふとびあ、ふいーる！ ふいーる！ ふいーるまいばでい！ あるこほる！ ほらー！ びあ！ びあ！ びあ……

ダンスシーン

B、メロディを歌い、すぐそれを忘れる。

Bは今まで歌ったことがないので今やったことがわからない。

Bは今やったことをなんとか思い出そうとする。

Aもそれを真似する。

(C、その間に一度倒れるがすぐに復活する)

AとB、だんだんメロディを思い出す。

ふたりでそのメロディを唱和する。

C あいきゃんせんどあめっせーじとぅーゆー
あいきゃんせんどあめっせーじとぅーゆー
はい！ あいむあすちゅーびっどがーる！
どぅーゆーあんだすたん！
ふあいん！ ふあいん！ ふあいん！ ふあいん……

C、倒れる。じきに復活する。

B、口笛を吹く。

C おーざなちゅらるむーぶめんおぶざそうるあーこんとろーるどばいろーずあなるじゃすとぅぞ
ーずおぶふいじかるぐらびてい、ぐれーすいずじおんりーえくせぶしょん

A ういーますとおーるうえいずえくすべくとしんぐすとぅはっぶんいんこんふおーみていういず
ざろーずおぶぐらびていあんれすぜあいずすばなちゅらるいんたーべんしょん

C とぅーふおーせずるーるざゆにばーす、らいとあんどぐらびてい

A ぐらびてい、じえねらりーわっとういーえくすべくとおぶあざーずでぺんずおんじえふえくと
おぶぐらびていあぼんあうあっせるぶす、わっとういーれしーぶふるむぜむでぺんずおんじえふえ
くとおぶぐらびていあぼんぜむ、さむたいむず、ばいちゃんす、ざとぅーこいんさいど、おーふん
ぜいどぅーなっと

C だめでせう
とまりませんな
がぶがぶ湧いてゐるですからな

B えびしんすがなびーおーらい、のーうーまんのーくらい！

B、倒れる。

AとC、旅に出る。

途中で復活したBも参加する。

B ごー！

泉を見つける。

三人はその水を飲み、靈感に撃たれる。

パンを得る。各々一口だけかじり、仕舞う。

【根源】が何事かを喋る。

三人変身する。

【下等生物】、死に、落ちる。

三人は【下等生物】を火葬する。

再び旅に出る。

A、倒れる。

BとC、起き上がるのを手伝おうとするが、Aはそれを払いのける。

A やめて！

Aは立ち上がる。

A ぷりーず、どんと、たちち、みー。

ぷりーず、どんと、たちち、みー。

B えびしんすがなびーおーらい、えびしんすがなびーおーらい

Bは口笛を吹く。

B、倒れる。

C うえないわず、せぶんていーんいやーずおーるど、

あばうと、てんいやーずあごー、

ざっとてりぶるしんぐはっぶんど、

しんすぜん、あいすぴーくいんぐりっしゅ、

びふおーざっと、あいすぽーくじゃばにーず、

あいりめんばー、なっしんぐあばうとざっとねいしょん、

ざっとねいしょん、ういっちいずこーるど、じゃぱん。

いるねす。いるねすいずあばーとおぶみー

ばーとおぶまいらいふ

だめでせう

とまりませんな

がぶがぶ湧いてゐるですからな

ゆふべからねむらず血も出つづけなもんですから

そこらは青くしんしんとして

どうも間もなく死にさうです

Aは不思議そうな顔をする。

Cはテープレコーダーを取り出し、再生する。

だめでせう

とまりませんな

がぶがぶ湧いてゐるですからな

ゆふべからねむらず血も出つづけなもんですから

そこらは青くしんしんとして

どうも間もなく死にさうです

けれどもなんといふ風でせう

もう清明が近いので

あんなに青ぞらからもりあがって湧くやうに
きれいな風が来るですな
もみぢの嫩芽と毛のやうな花に
秋草のやうな波をたて
焼痕のある藺草のむしろも青いです
あなたは医学会のお帰りか何かは知りませんが
黒いフロックコートを召して
こんなに本気にいろいろ手あてもしていただげば
これで死んでもまづは文句もありません
血がでてゐるにかゝはらず
こんなにのんきで苦しくないのは
魂魄なかばからだをはなれたのですかな
たゞどうも血のために
それを云へないがひどいです
あなたの方からみたらずみぶんさんたんたるけしきでせうが
わたくしから見えるのは
やっぱりきれいな青ぞらと
すきとほった風ばかりです。

A わっつ？

C あいどんのう

A どうーゆーはぶあしがれっと？

C のー

Aはメロディを歌う。

Cはそれを口笛で吹く。

Aは口笛を吹こうとするが、吹けない。

C とーくとうみー

Aは何も言うことがない。

作者が登場し、Aに耳打ちをする。

作者 ぼくにはかつて姉がいた

A ぼくにはかつて姉がいた

作者 一緒に映画に行ったことがある

A 一緒に映画に行ったことがある

作者 僕は姉の言うことが半分はよくわかっていなかった

A 僕は姉の言うことが半分がよくわかっていなかった

Bが復活する。

B えびしんがなびーおーらい、えびしんがなびーおーらい
ごー！

最後の旅。

海にたどり着く。

三人は先程仕舞ったパンを取り出す。

しかし、パンは初代ゲームボーイに変身している。

三人はそれを耳に当てる。

三人 もしもし、もしもし

【根源】、何事かを喋る。

初代ゲームボーイはパンに変身している。三人はそれを食べる。

【根源】、膨らむ。

【根源】、爆発する。

真っ白な羽が空から舞い落ちる。

三人はパンを食べ続ける。

終演。

作:カゲヤマ气象台(円盤に乗る派)

本戯曲は京都芸術センターが著作者より許諾を得て公開しています。
作品の全部もしくは一部を、著作者に許可なく転載することを禁じます。
本戯曲を上演するなど、使用を希望する場合には、著作者までお問い合わせください。

京都芸術センター <http://kac.or.jp/>